

## 第7回外務省政策会議

(概要記録)

日時：11月18日 午前8:00～8:45

場所：参議院議員会館 第5会議室

出席議員の概数：40名程度

議題：

- (1) APEC閣僚/首脳会合
- (2) オバマ大統領の訪日と日米首脳会談
- (3) 岡田大臣の沖縄出張報告
- (4) 対アフガニスタン・パキスタン支援
- (5) 日メコン地域諸国首脳会議
- (6) 武正副大臣の出張報告(拡大中東北アフリカ関係会合)
- (7) その他

### I. 外務省政務三役からの報告

#### 1. 岡田大臣の冒頭挨拶

(1) オバマ大統領の訪日については、報道が普天間基地問題に集中したが、日米双方とも今回の会談で決着させるという認識はなかった。日米合意とは、普天間基地が市街地に位置することから極めて危険であるとの問題意識のもと、名護市辺野古に代替施設を移転し、普天間基地を我が国に返還する、右に伴い8000人の米海兵隊がグアムに移転し、嘉手納以南の基地を返還する、というもの。日米間で設置に合意した作業グループは、何故現行の合意に至ったのかについて検証を行う。なお、普天間基地問題について閣内の不一致を指摘する向きもあるが、表現上のニュアンスの違いはあるにしても、鳩山総理、平野官房長官、自分(岡田大臣)、北澤防衛大臣の間では密接な連絡を取ってきており、認識も一致している。

(2) 鳩山総理とオバマ大統領は、打ち解けた雰囲気の中で交流が深まり、両者は馬が合うという印象を新たにした。

#### 2. 武正副大臣による説明

(各議題について、配付資料に基づき説明)

### II. 質疑応答

#### 1. 沖縄基地問題

(質問・コメント)

- ・ 米国では、米軍再編に伴う経費の予算案が議会上院で審議されている。普天間基地問題ともリンクしており、同問題の早急な解決が必要との危機感を持っていただきたい。
- ・ 日米合意が決まった際の不明瞭な部分についてしっかり検討して欲しい。
- ・ 来年は島津氏の沖縄侵略400周年を迎えるなどから沖縄としてのアイデンティティが高まっている。基地の固定化に対して一層の強い反発が予想される。沖縄に対する見返りは、独立や一国二制度の導入まで含めた抜本的なことを検討して欲しい。
- ・ 作業グループによる検証作業の期日はいつ頃か。
- ・ 普天間基地問題を解決しないで放置するというのも選択肢の一つ。性急にならずに50～

100年かけて取り組んでも良い問題。

- ・米側も政権交代があったことから、日米合意の位置づけを再度検討することは必要。
- ・より深いフィージビリティ・スタディが必要。
- ・米軍再編といった軍の論理だけで物事を進めるのは不適切。文民統制の徹底と国民の視点の反映が大切であり、その点で外務大臣の役割を期待する。
- ・前政権の決定を見直すことは民主党のマニフェストに記載されている事項。沖縄基地問題に関する見直しは必要。

(回答：岡田大臣)

- ・作業グループの作業期日は具体的に決めていない。しかし、「速やか且つ出来るだけ早く」ということでは日米間にコンセンサスがある。年内ということが一つの目安となる。
- ・困難な問題は、日米合意があり既に9合目まで来ているという状況で、最後の一番難しいところまで切り切るか、あるいは一度下山してやり直すかということである。決めの問題でもある。ただし、やり直すとなれば相応の時間がかかることも事実。
- ・白紙にするのであれば、そもそも何故沖縄に米海兵隊が駐留しているのかということも俎上に上るのが筋だが、そのようなゼロベースの議論が可能かとの問題もある。
- ・沖縄の住民の70%は、問われれば国外あるいは県外への移設を望むといわれている。合意は国同士のものであるが、実施の段階のことなども考えれば当然住民の声は無視できるものではない。

## 2. 対アフガニスタン・パキスタン支援

(質問・コメント)

- ・今般発表された対アフガニスタン・パキスタン支援策には反対である。現地政府の能力を考えると、ザルに流し込むようなものである。警察支援のためのお金が、タリバーンに流れているとの指摘もある。また、民主党にはアフガニスタンを訪問したことがある議員が複数おり、それら議員の意見も聞くようにしてほしい。
- ・対アフガニスタン・パキスタン支援策に賛成。米から boots on the ground という要望はあったのか。

(回答：岡田大臣)

- ・米からそのような要請はない。

## 3. いわゆる「密約」調査

(質問・コメント)

- ・「密約」の調査チームの報告は、予定通り11月末に公表されるのか。

(回答：岡田大臣)

- ・11月末を目処としているのは、省内の「密約」チームが大臣に調査結果を報告することについてである。「密約」チームによる報告の後、第三者委員会を設置し、第三者委員会が当省の「密約」チームの報告についての検証、当時の時代背景等種々の検討をした上で、報告が行われることになる。

## 4. 北朝鮮問題

(質問・コメント)

- ・北朝鮮問題の過去の経緯を検証してほしい。拉致問題の解決を政治的に利用するために前

政権が過度の譲歩を行ったというようなことはなかったか。

- ・ 我が国の拉致問題への拘りが六者会合の進展を阻害しているという事実もある。新しいオプションを検討してもいいのではないか。
- ・ 北朝鮮の有事に備えた対応について米韓間では協議していると聞く。我が国も日米間及び日韓間でそのような協議をしっかりと欲したい。

(回答・岡田大臣)

- ・ 日米韓間で足並みの乱れはなく、その点心配は要らない。拉致問題の解決に向けても認識を摺り合わせている。
- ・ 時間の利益は、北朝鮮ではなく我々の側にある。

## 5. イラク戦争の検証

(質問・コメント)

- ・ 英、蘭などはイラク戦争について第三者委員会を立ち上げ検証していると聞く。我が国でも同戦争について検証していただきたい。

(回答：岡田大臣)

- ・ イラク戦争の検証については関心を有している。しかし、今後の検討事項としたい。

< 配付資料別添 >

(以上)